

鹿児島県の水車利用に関する研究

第6報 大隅半島南部地域について

門 久義・松村 博久
(受理 平成3年5月31日)

A STUDY ON THE UTILIZATION OF WATER WHEELS AND TURBINES IN KAGOSHIMA PREFECTURE 6TH REPORT, IN REGARD TO THE SOUTHERN PART OF THE OOSUMI PENINSULA

Hisayoshi KADO and Hirohisa MATSUMURA

In this report, the utilization of water wheels and turbines in the southern part of the Satsuma Peninsula from the past to the present time is described in full and considered, especially, with respect to the historical and human geographical causes in each area.

It is clear from this research that in this district, there are nineteen locations for rice-polishing or milling, ten for lumbering, six for pumping, six for the generation of electricity, four for producing incense sticks, three for producing camphor, two for producing sweet potato starch, and so on. The number of total locations is fifty two. One Pelton wheel, one mid-stream iron wheel, and two mid-stream wooden wheels now exist.

1. ま え が き

前報^{1)~5)}に引続き、本報告では大隅半島南部地域の水車利用実績に関する詳細なデータの記録を目的とする。そして、水車の利用形態や傾向と各地域の歴史・地理的要因との関係について個別に検討し、水車利用の実態をできるだけ詳しく把握し、将来における地域再開発の展望にも参考になるような資料とすることを意図する。

2. 大隅半島南部地域の水車利用実績

大隅半島南部の9町についての調査結果を、各町単位で表および図にまとめて示す。表中の番号は図中の番号と対応している。図中の●印は水車の設置位置を、表はその詳細を表している。ただし、肝属郡東串良町は、調査の結果、過去に水車の利用実績がなかったため、除外してある。

(1) 肝属郡串良町(表1, 図1)

串良町は、鹿屋市から志布志湾に向けて広がる笠野原台地中央にある。町の北部を南東に横切り東端を南

に流下する串良川と、南端を東に流れる肝属川、およびそれらの支流がわずかに流れる程度である。当町には、文政年間(1818~1841年)に掘られたとみられる深さ約64m、表面の直径約90cmの土持堀の深井戸(鹿児島県指定史跡)がある。これからも、串良町は古くから水不足に苦しんでいたことがわかる。

表1と図1に示すように、串良町には揚水用水車が4ヶ所もあり、2台は現在も稼働している。そして甘藷の澱粉製造用水車も2ヶ所あった。いずれも台地を深く浸食した川の近くである。

(2) 肝属郡高山町(表2, 図2)

高山町は串良町の南に接し、内之浦町との境は分水嶺になっている。ここでは、精米兼用も含めてたぶ線香用水車が5ヶ所、精米用が3ヶ所あった。南側が大きな山に囲まれ、たぶの木が豊富にあったと思われるが線香製造用の水車が多くあったことが注目される。

(3) 肝属郡内之浦町(表3, 図3)

内之浦町は海岸線に沿って北東から南西方向に長い地形をしている。西側の町境は分水嶺である。河川はすべて海岸まで一気に流れているが、水量は豊富らし

く、12ヶ所で水車が使用されていた。その用途は、精米兼用も含めて発電用が5ヶ所、精米用が5ヶ所、製縄1ヶ所、製材1ヶ所である。発電用水車の多いが目立ち、とくに表3の1は発電事業として行われたものである。

(4) 肝属郡吾平町(表4, 図4)

吾平町は高山町の西に接し、南は山間部で北は平地となり、肝属川の支流始良川・苦野川が流れている。水車の使用実績は6ヶ所で、製材兼用2ヶ所を含めてすべて精米用であった。

(5) 肝属郡大根占町(表5, 図4)

錦江湾に面し鹿屋市の南、吾平町の西に隣接する大根占町は河川の少ない地区で、神ノ川以外に目立った川がない。そのため、精米用水車が1ヶ所あっただけである。

(6) 肝属郡根占町(表6, 図5)

錦江湾に面し大根占町の南に位置する根占町は、南が山間部で河川もほとんどなく、北側には港に流れ込

む川がひとつある。水車も4ヶ所で使用されたが、昭和10年代頃までにすべて使われなくなった。

(7) 肝属郡田代町(表7, 図5)

田代町は根占町の東にあり、北の大根占町、東の内之浦町、南の佐多町とは分水嶺によって画されている。分水嶺に三方を囲まれているため河川がよく発達しており、かつて6ヶ所で水車が使用され、鉄製揚水水車1台が現在も稼働している。水車の用途は、樟脳製造用が3ヶ所、揚水用が2ヶ所、製材が1ヶ所であった。

(8) 肝属郡佐多町(表8, 図6)

佐多町は大隅半島南端にあり、北側の町境は分水嶺で、三方が海の山深い地形である。河川はあまり発達していないが水量は比較的豊富らしく、11ヶ所で水車が使用された。かつて精米用が3ヶ所、精米・製材用が1ヶ所、製材用が3ヶ所、製材・発電が1ヶ所、発電が1ヶ所、搗鉦が1ヶ所の使用実績があり、そしてベルトン水車でポンプを駆動し海水の揚水を行っているところが1ヶ所あり、現在でも稼働している。

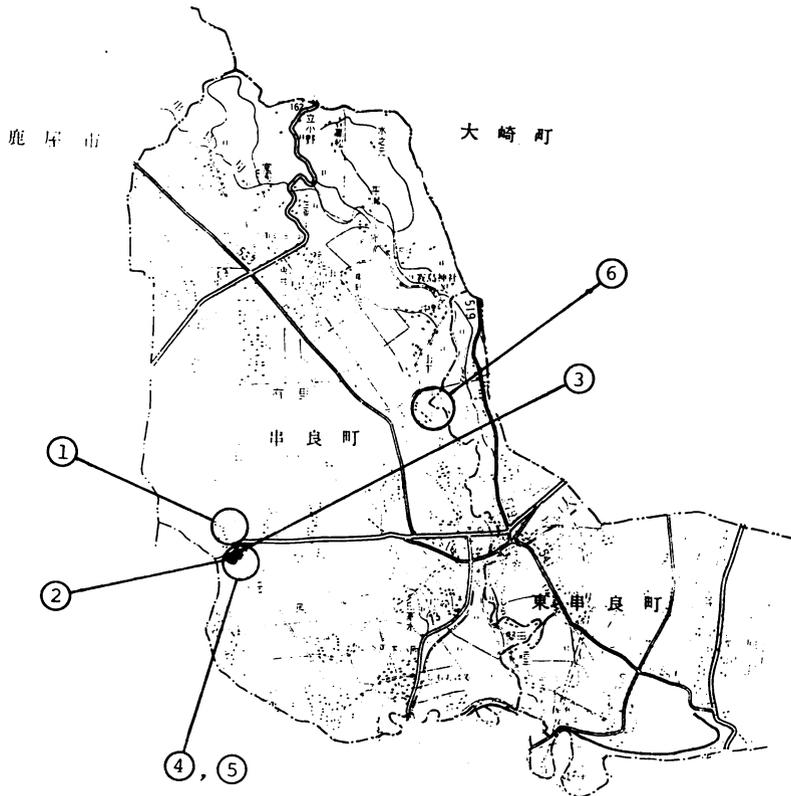


図1 串良町の水車利用分布

表1 肝属郡申良町における水車利用実績

番号	水車設置場所	水車形式	直径/幅 (m)	材質	用途	使用期間	所有者	備考
1	上小原 中山上	流し掛け	?	木	揚水	?	上床 某	
2	上小原 中山下	流し掛け	?	木	揚水	昭和10年頃～現在	本村 国彦	稼動
3	上小原 中山下	流し掛け	?	木	揚水	昭和10年頃～現在	上別府 某	稼動
4	上小原 中山下	流し掛け	?	木	揚水	?	上仮屋 勇吉	
5	上小原 中山下	在来型	?	木	澱粉	?	岡留半兵衛→上別府某	
6	有里 中郷	在来型	?	木	澱粉	大正年間～昭和20年代	木山 嘉七	

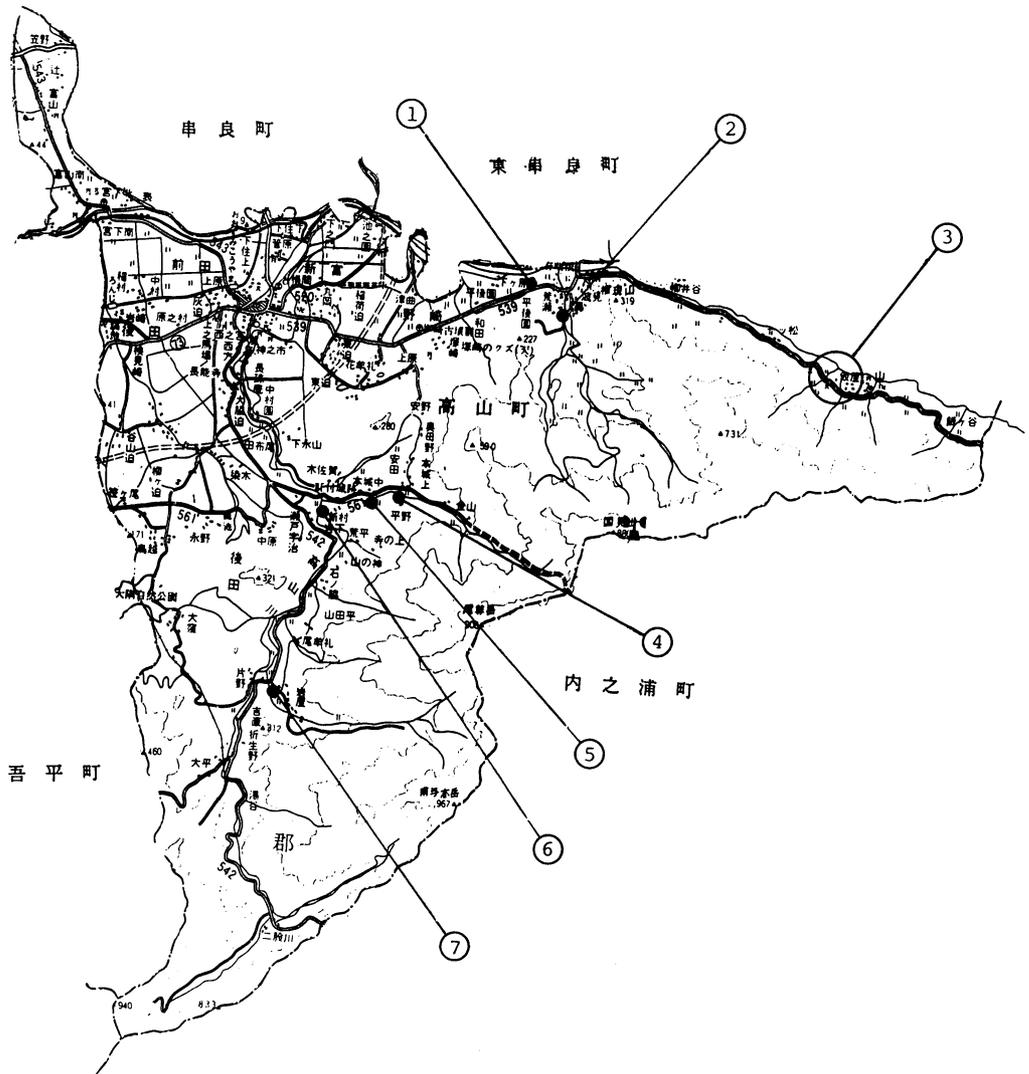


図2 高山町の水車利用分布

表2 肝属郡高山町における水車利用実績

番号	水車設置場所	水車形式	直径/幅 (m)	材質	用途	使用期間	所有者	備考
1	波見 平後園	上掛 け	約4/	木	精米・骨粉	?	大久保 利 定	
2 a	波見 荒瀬	前掛 け	7/1	木	たぶ線香	昭和11年~51年頃	北 村 一	
2 b	〃	上掛 け	3.6/1	木	たぶ線香	昭和11年~53年	〃	
3	波見 有明 (仮屋)	在 来 型	?	木	精 米	?	飯 ケ 谷 某	
4	本城上 仁田橋	上掛 け	総4/	木	たぶ線香	~昭和35年頃	安 倍 久 人	
5	本城中 平石	上掛 け	?	木	たぶ線香	~昭和28年頃	安 倍 某	
6	本城中 新村	上掛 け	?	木	精米・製粉・押麦	昭和27年頃	渡 口 義 則	
7	後田 岩屋	タービン	?	鉄	精米・たぶ線香	~昭和27年頃	安 達 ハナエ	

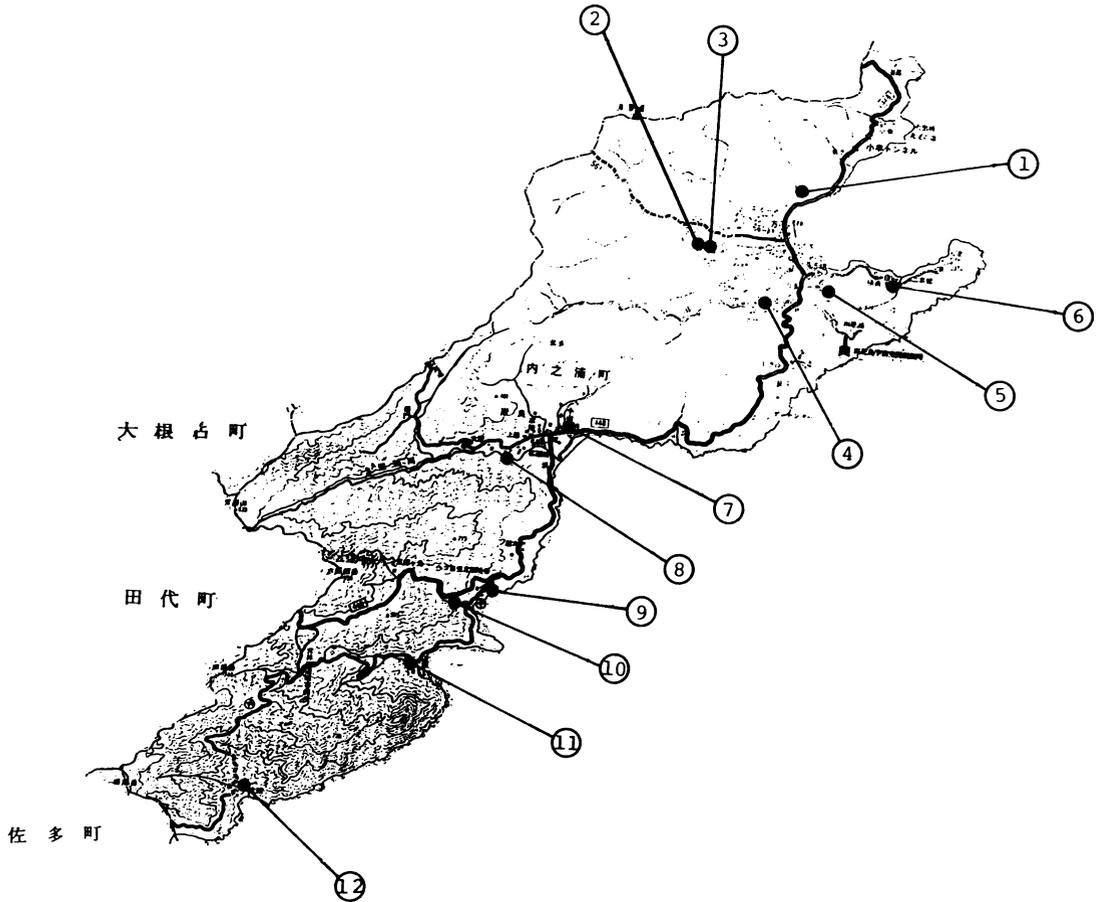


図3 内之浦町の水車利用分布

表3 肝属郡内之浦町における水車利用実績

番号	水車設置場所	水車形式	直径/幅 (m)	材質	用途	使用期間	所有者	備考
1	北方 檉脇	?	?	?	発電	昭和初期~23年頃	神戸 某	
2	北方 赤木屋	上掛け	?	木	精米	~昭和初期	市成正 嗣	
3	北方 赤木屋	在来型	?	木	製縄	~昭和13年	有馬道夫	
4-1	北方 侍金	上掛け	約4/1.5	木	骨粉	~昭和10年頃	?	用途変更
4-2	〃	〃	〃	〃	製材	昭和10年頃~20年	日高 某	
5	南方 小野	在来型?	?	木?	精米	?	坂元 某	
6	南方 白木	在来型?	?	木?	精米	?	?	
7	岸良 港	上掛け	約5/0.6	木	精米	昭和13年	竹中 たねよし	
8	岸良 上西	前掛け	約12/約1	木	製材	~昭和30年頃	黒木重倉	
9	岸良 船間	在来型?	?	木?	精米→発電	?	田原春岩	
10	岸良 船間	在来型?	?	木?	発電	?	?	
11	岸良 辺塚	在来型?	?	木?	精米・発電	~昭和28年頃	船迫辰夫	
12	岸良 大浦	在来型?	?	木?	精米・発電	?	増田隆志	

表4 肝属郡吾平町における水車利用実績

番号	水車設置場所	水車形式	直径/幅 (m)	材質	用途	使用期間	所有者	備考
1	上名 大牟礼	在来型?	?	木?	精米	~昭和40年頃	田原 稔	
2	下名 金山	在来型?	?	木?	精米	~昭和40年頃	?	
3	麓 神野東	前掛け	約5/	木	精米・製粉・製材	大正~昭和13年	山元 某	水害流失→4
4	〃	上掛け	約4/	木	精米・製材	昭和22年頃~48年頃	山元吉助	3の対岸
5	麓 神野西	上掛け	約4/	木	精米	大正初期~昭和初期	前田 袈裟次郎	
6	麓 大川	上掛け	?	木	精米・製粉	?	大川 けさき	

表5 肝属郡大根占町における水車利用実績

番号	水車設置場所	水車形式	直径/幅 (m)	材質	用途	使用期間	所有者	備考
1	馬場 半ヶ石	在来型	?	木	精米	昭和7年頃~58年頃	養田 栄	

表6 肝属郡根占町における水車利用実績

番号	水車設置場所	水車形式	直径/幅 (m)	材質	用途	使用期間	所有者	備考
1	川北 古殿	前掛け	約4/	木	精米	~昭和10年代	?	
2	山本 尾之上	在来型?	?	木?	精米	~昭和10年代	?	
3	横別府 大久保	在来型?	?	木?	?	?	?	
4	辺田別府 竹野	在来型?	?	木?	精米	?	白木重雄	

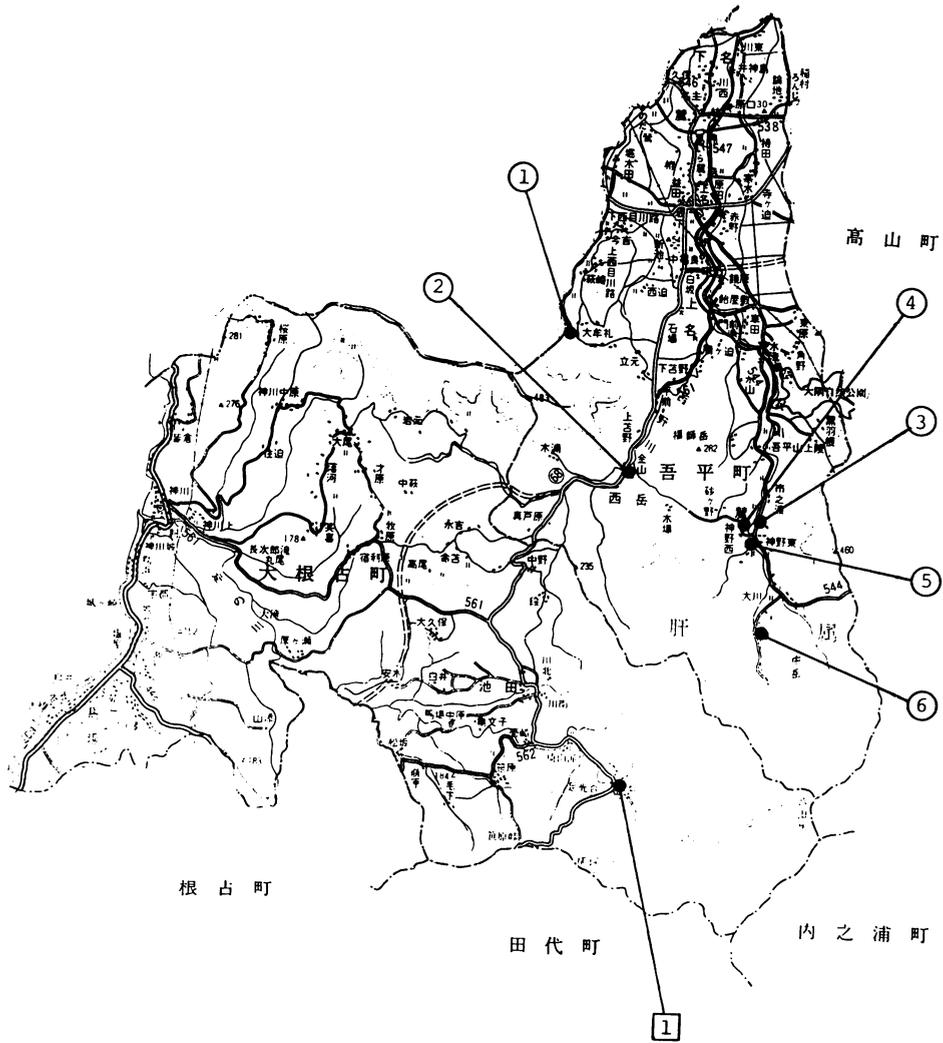


図4 吾平町・根占町の水車利用分布

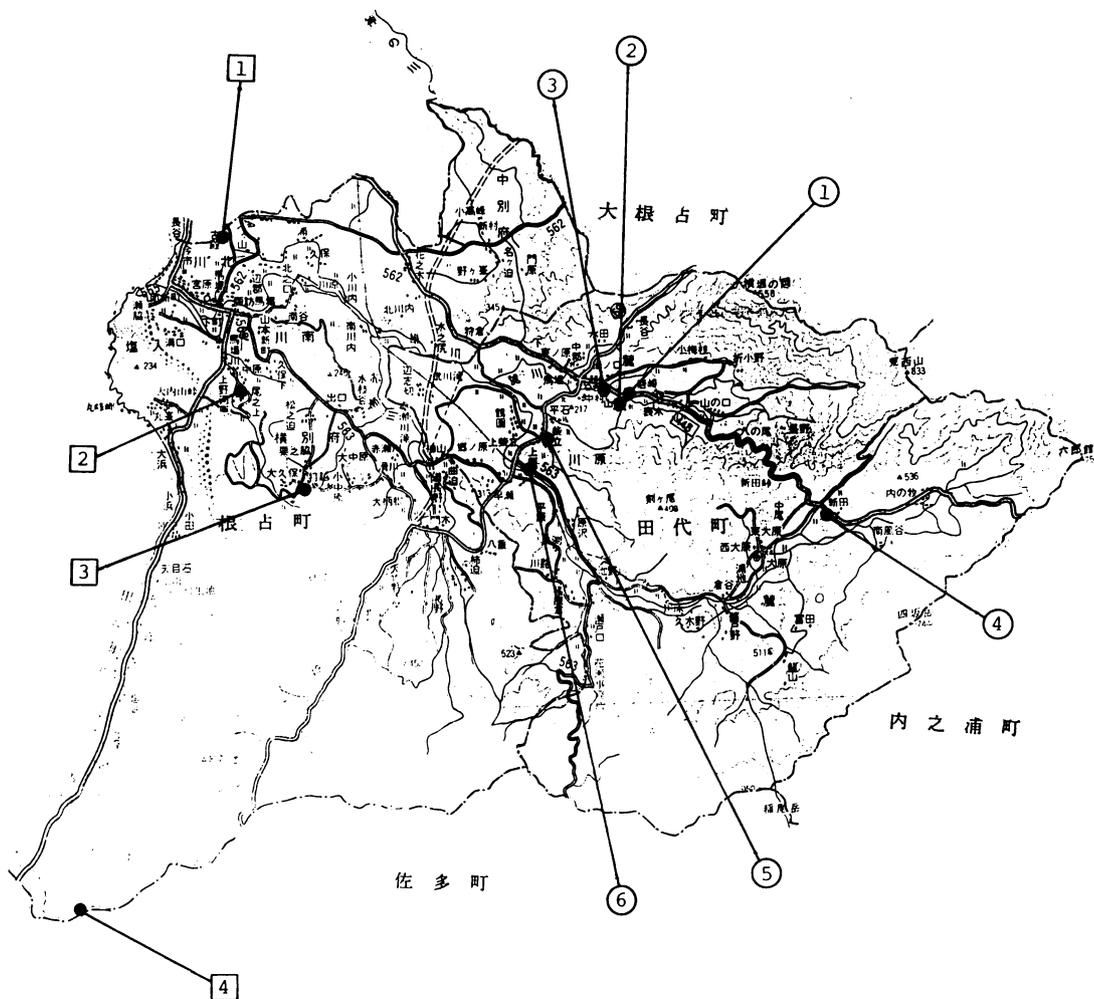


図5 根占町・田代町の水車利用分布

表7 肝属郡田代町における水車利用実績

番号	水車設置場所	水車形式	直径/幅 (m)	材質	用途	使用期間	所有者	備考
1	麓 山下	下掛 け	約4 /	木	製 材	昭和初期頃	湯谷 義雄	チップ製造
2	麓 山下	流し掛 け	?	木	揚 水	?	?	
3	麓 中村	下掛 け	約4 /	木	樟 脳	昭和初期頃	?	
4	麓 新田	下掛 け	約4 /	木	樟 脳	昭和初期頃	?	
5	川原 柴立	下掛 け	約4 /	木	樟 脳	昭和初期頃	?	
6	川原 上原	流し掛 け	3.5 /	鉄	揚 水	～現在	浜畑 医院	稼 動

表8 肝属郡佐多町における水車利用実績

番号	水車設置場所	水車形式	直径/幅 (m)	材質	用途	使用期間	所有者	備考
1-1	伊座敷 垂水	前掛 け	約2/	木	精米・製材	～大正8年頃	西川喜三郎・佐太郎	2連, 場所移転
1-2	〃	〃	?	木	製材(漢方薬)	大正8年頃～昭和初期	西川 佐 太 郎	
2	伊座敷 川田代	在 来 型	?	木	搗 杵	明治14年頃	安 藤 某	佐多町誌
3	郡 東山崎	上 掛 け	約5/	木	精米・製材	大正7年頃～15年頃	山 下 虎 吉	4に移転
4	大中尾 川北	上 掛 け	約2/	木	精 米	昭和初期～1年程	〃	
5	辺塚 村山	上 掛 け	6/1.5	木	製 材	大正7年頃～15年頃	山 下 某	
6	辺塚 萩平	ベルトン	(5kW)	鉄	発 電	昭和29年～40年	農 協	
7	辺塚 中郷	上 掛 け	約4/1.5	木	精 米	昭和8年～	湊 原 嘉次郎	
8-1	辺塚 中郷	フランスス	(約20HP)	鉄	製 材	昭和10年～13年頃	湊 原 嘉次郎	
8-2	〃	〃	〃	〃	製材・発電(夜間)	昭和13年～28年頃	〃	
9	辺塚 中郷	上 掛 け	6/1.5	木	製 材	大正10年頃～15年頃	江 原 某	
10	辺塚 中村	上 掛 け	約4/1.5	木	精 米	～昭和10年代	山 下 某	
11-1	辺塚 打詰	ベルトン	?	鉄	ポンプの駆動	～昭和61年12月	大 竹 野 某	所有者変更
11-2	〃	〃	〃	〃	〃	昭和61年12月～現在	松 本 純	稼 動

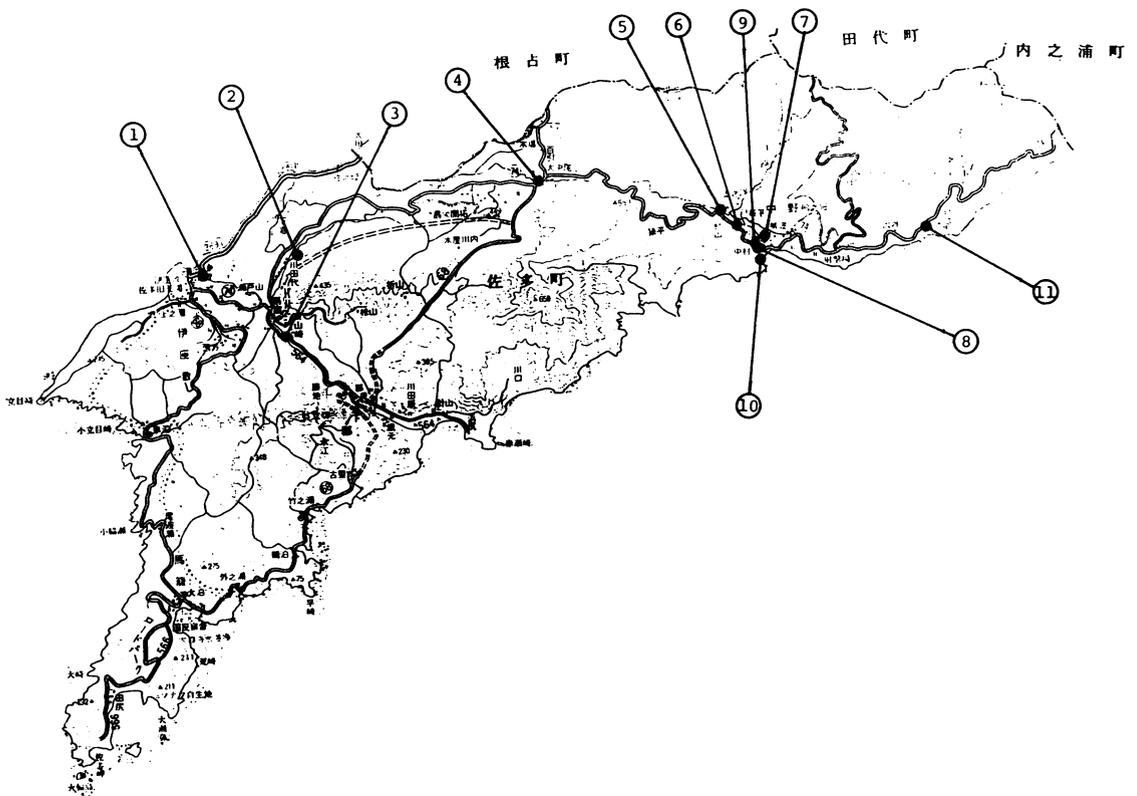


図6 佐多町の水車利用分布

3. あとがき

鹿児島県内を分割した7地域のうち、大隅半島南部地域（9町）の水車利用実績について用途別に集計してみると、精米・製粉等の水車が19ヶ所、線香用4ヶ所、製材用7ヶ所、澱粉用2ヶ所、樟脳用3ヶ所、製材・精米用3ヶ所、揚水用6ヶ所（現存4台）、発電用6ヶ所、その他2ヶ所、総数52ヶ所（現存4台）あった。とくに、現存4台すべてが揚水用水車であり、大隅半島地域の大きな傾向である。

この記録はもちろん完全なものではなく、調査漏れのものも少なくないと思われる。今後も、各市町の古老や郷土史家の協力を願って、さらに充実したものにまとめていきたいと思っている。

引用文献

- 1) 松村博久・門久義, 鹿児島県の水車利用に関する研究 第1報 北薩地域について, 鹿児島大学工学部研究報告, No. 32, 平成2(1990)年, pp. 21~36.
- 1) 門久義・松村博久, 鹿児島県の水車利用に関する研究 第2報 薩摩半島北部地域について, 鹿児島大学工学部研究報告, No. 32, 平成2(1990)年, pp. 37~49.
- 3) 松村博久・門久義, 鹿児島県の水車利用に関する研究 第3報 薩摩半島南部地域について, 鹿児島大学工学部研究報告, No. 32, 平成2(1990)年, pp. 51~61.
- 4) 門久義・松村博久, 鹿児島県の水車利用に関する研究 第4報 始良・霧島地域について, 鹿児島大学工学部研究報告, No. 33, 平成3(1991)年, pp. 23~37.
- 5) 松村博久・門久義, 鹿児島県の水車利用に関する研究 第5報 大隅半島北部地域について, 鹿児島大学工学部研究報告, No. 33, 平成3(1991)年, pp. 39~50.